

平成 25 年平均消費者物価地域差指数

(平成 26 年 3 月 28 日公表)

概 況

地域間の物価水準差を測る平成 25 年（2013 年）平均消費者物価地域差指数（51 市^注平均＝100）の総合指数（持家の帰属家賃を除く）を都道府県庁所在市別にみると、横浜市が 106.0 と最も高く、次いで東京都区部が 105.9、さいたま市が 103.3、長崎市が 102.4、神戸市が 102.2 などとなっている。

一方、最も低いのは宮崎市の 97.1 で、次いで秋田市が 97.3、奈良市が 97.4、前橋市、福岡市及び佐賀市がいずれも 97.5 などとなっている。

なお、横浜市は宮崎市に比べ 9.2%高くなっている。

大分市は 98.2 で、全国の都道府県庁所在市のうち 37 番目となり、最も高い横浜市に比べ 7.4%低くなっている。

九州各県の県庁所在市をみると、長崎市 102.4（4 番目）、那覇市 101.2（10 番目）、熊本市 100.0（18 番目）、鹿児島市 98.0（41 番目）、福岡市及び佐賀市がいずれも 97.5（43 番目）、宮崎市 97.1（47 番目）となっている。

また、食料指数でみると、大分市は 100.2 で、全国の都道府県庁所在市のうち 20 番目となり、最も高い横浜市の 105.9 に比べ 5.4%低くなっている。

注) 51 市とは都道府県庁所在市（東京都については東京都区部）及び政令指定都市（川崎市、浜松市、堺市及び北九州市）のことである。

